

## 無痛分娩の方法

vol.11年報/2016.11.1発行

2015年秋から始まった無痛分娩。。。 昨年は「女医さんもやっぱりお産の痛みは怖い？」と当クリニック女医で無痛経験者を交えて  この記事はホームページからダウンロードできます 懐かしい思い出話をしました。

今年は、少し具体的に  
無痛分娩の方法について  
お話します。



## 無痛分娩？

出産には陣痛という痛みが伴います。  
これを麻酔薬で痛みを和らげながらお産をする方法です。

最も一般的な無痛分娩の方法は『硬膜外麻酔による無痛分娩』です。  
背中から細い糸のような管をいれてそこから薬をいれて痛みを軽くする仕組みです。  
痛みを我慢できるくらいに抑えつつ、意識はいつもと変わらない状態なので、  
お産をリラックスして迎えられるし、自分でいきむこともでき、産後の回復も早いといわれます。  
麻酔薬も極少量なので赤ちゃんにも影響はほぼありません。  
ただし、無痛分娩にもデメリットがあります。  
硬膜外麻酔によるリスクとしては、極まれですが、硬膜外麻酔が髄液や血管にはいってしまうことによる呼吸困難や、舌や唇のしびれ、ひきつけなどを起こすことがあります。

## 麻酔薬による副作用は？

皮膚のかゆみ、低血圧、  
体温上昇、頭痛や吐き気など  
が出る場合があります。



## お産に対する影響は？

麻酔薬により陣痛やいきむ力が  
弱くなり、分娩時間が長びいたり、  
吸引分娩が増える  
可能性があります。



当クリニックでは、  
無痛分娩は計画分娩といって  
日取りを決めて入院し  
子宮収縮促進剤を使って陣痛を  
起こしてのお産となります。

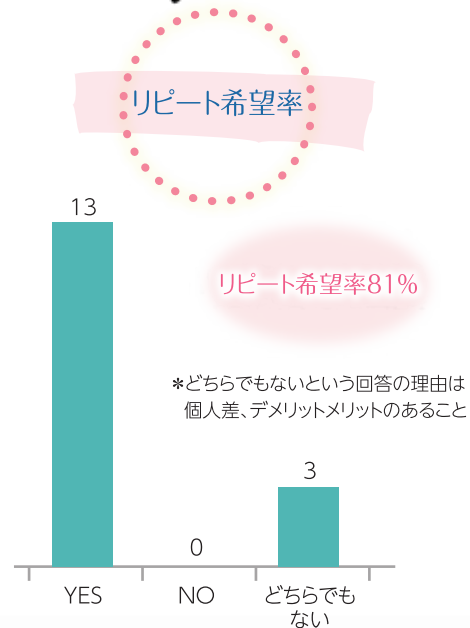
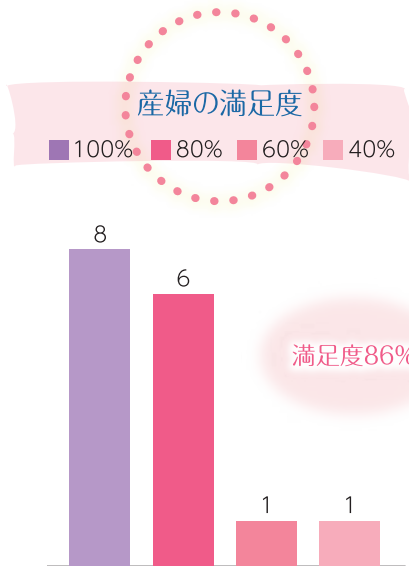


## 無痛分娩満足度は...?

vol.11年報/2016.11.1発行

さて、この一年を振り返ってみました。

その「産後アンケート」です。



満足度は  
極めて高く、  
リピート希望率も  
高い結果  
でした

痛みのとれ具合は個人差がありますが  
みなさん大変満足して退院されました  
理由としては、リラックスできた  
安心できた  
産後が楽だった  
体力が温存できた  
自分を保ったままお産を実感できた  
などで、「麻酔科医がそばにいるのでよかった」  
とも言っていました

## お産の方法はいろいろあっていい.....

お産は女性の一生のなかでも数回あるかないかのとても大切な体験です  
そのお産をどんなふうに迎えたいか

お産のあと、  
いいお産だった...また産みたいなあ  
と思えるようなお産をしてほしいと願っています

興味がおありになる方は主治医にお伝えください  
麻酔科外来でお待ちしております